活動報告
2018

パレスチナ子どものキャンペーン

CCP Japan

たくさんの笑顔に会えました。世界は厳

世界の難民は6700万人を越え、全人口の100人に1人が難民の時代となっています。その中で、最も長い生活を送っているのが、70年前に故郷を追われたパレスチナ人たちです。その数は550万人を越えました。

故郷を追われ異郷の地での生活は厳しいものです。幾度もの戦火をくぐり、難民として蔑まれ、劣悪な難民キャンプで暮らし、軍事占領下での抑圧され、保護の無い無国籍状態におかれ、政治的発言も出来ない、職をもてない、等々。

それでも人々は生き延び、世代をつないできました。また、故郷に帰る日、権利を回復する日、国を持てる日を目指して人々は解放運動を続け、パレスチナ問題の解決は、国際社会のテーマになりました。その結果、イスラエルとの和平、自治の開始、国連へのオブザーバー参加などが出来ましたが、その後は暗礁に乗り上げています。イスラエルでは右派政権が継続し、入植地が拡大され、社会も右傾化しアラブ系市民の権利が脅かされています。パレスチナ側も自治政府とハマスの対立は激化し、和解のめどさえ立ちません。

しいけれど、それに負けない子どもたち

特に、2017年に米国のトランプ政権が誕生して以降は、米国が一方的にイスラエルに加担する中で、米大使館のエルサレム移転、国連パレスチナ難民救済事業機関UNRWAへの拠出金を含むパレスチナ支援の停止が進み、パレスチナ人の生活はいっそう厳しくなっています。アラブ世界も2011年の民主化の挫折や内戦勃発などで、パレスチナへの関心が遠のき、ヨーロッパもシリア難民受け入れの対応などで自国第一主義に傾きつつあります。

大きな政治や社会の流れを市民やNGOが変えることは困難で、しばしば無力感に襲われます。そんな私たちを励ましてくれるのは、子どもたちです。想像を超える経験をした子どもたち、心身に深い傷を負っている子どもたちが、それでも希望を失わず笑顔を見せてくれました。その強靭さと優しさから未来を確かに感じます。

2018年度も子どもたちの笑顔のために
ご支援ご協力くださった皆様に改めて感謝を申し上げます。

シリア難民・パレスチナ難民支援

補習クラスでの小テスト

2011年に始まったシリア内戦では20万人以上が犠牲となり、500万人が国外に逃れ、1000万人が国内避難民となりました。当会では2012年にヨルダンでシリア難民支援を開始し、2013年からはレバノンに移ってシリア難民支援を継続しています。また2018年からはシリア国内での支援も開始しました。

レバノンには100万人を越えるシリア難民が流入しています。その中には、パレスチナを追われシリアで難民生活を送っていたパレスチナ人たちも多く含まれています。元々レバノンには、1948年以来数十万人のパレスチナ難民が暮らしてきました。パレスチナ人はレバノンの市民権を得ることが出来ないだけでなく、就労権や不動産を持つ権利も否定され、国連UNRWAの教育や医療サービスを受けることはできるものの、レバノンの公的サービスは受けられず最も厳しい生活を送っているといわれています。レバノンではシリア難民のための難民キャンプは作られていないため、多くのシリア難民が昔からあるパレスチナ難民キャンプに住み着いていて、元々劣悪な環境のキャンプはますます厳しい暮らしになっています。

パレスチナ難民キャンプは電線が垂れ下がる

シリア難民・パレスチナ難民支援

幼稚園（3〜5歳）

幼児教育・給食提供

455人

補習クラス
（小学1〜4年生）

学習・給食支援 **537人**

心理社会的サポート **1,087人**

教員研修

保育士と補習クラス指導員

73人

レバノン山岳部での燃料配布

女性たちのワークショップで版画にとりくむ

シリアの女性が描くお母さんと私

UNRWA診療所の医療スタッフ

レバノンでの支援活動

パレスチナ人シリア難民、シリア人難民、地元のパレスチナ難民を対象。

- 幼稚園での受け入れ、小学生対象の補習クラス（未就学児も多い）
- 幼稚園・補習クラスでの給食提供、心理社会的サポート
- 子ども歯科での検診と治療、児童精神科の診療、女性と母親向けの心理社会的サポート
- テント生活の人々などへの燃料の支援

シリアでの支援活動

シリア国内のパレスチナ難民キャンプにある国連UNRWA診療所への血液検査機器の提供。同じく難民キャンプでの女性と母親向けの心理社会的サポート。心理社会的サポートに従事する人たちへの研修

子ども歯科
（幼稚園・補習クラスに通う子ども）

検診 **5,078人**
治療 **1,238人**（延べ数）

児童精神科

医師・臨床心理士による子どものメンタルケア
1,606人
（延べ数）

物資配布（特に脆弱な世帯）

燃料配布
1,635世帯
（約8,000人）

女性ワークショップ
（ストレス・マネジメント）

456人

パレスチナでの医療・保健支援

ガザ地区は、10年以上にわたるイスラエルやエジプトの厳しい封鎖により、人々の往来が極度に制限されるほか、長時間の停電、水の不足、環境汚染、生活物資や建設資材などの不足、医薬品の不足と医療へのアクセスの制限、戦争で破壊されたインフラや民家の復興の遅れなどが生活を苦しめています。その結果、人口の8割が支援に頼る生活を強いられ、若者の7割が失業しています。

2008・2009年、2012年、2014年と続いた大規模なイスラエルの軍事侵攻では、多くの犠牲者と負傷者が生まれ、障がいを持つ人が増えました。

当会では、2014年の戦争中から緊急人道支援を開始し、2015年からは負傷し障がいを負った子どもたちへの医療保健支援を継続しています。18年からは、事故や先天性の原因で障がいを持つ子ども、大人たちへの支援も開始しました。また、封鎖の中で特に影響の大きい幼い子どもたちの栄養状態改善にも取り組んできました。

ガザでは、女性の死亡原因の一位が乳がんです。2016年から乳がん患者への支援も続けています。

施設での
リハビリも開始

パレスチナ❶ 医療支援

訪問医療とリハビリ
（3〜30歳傷病者／子ども中心）

379人
（2014年から累計800人）

施設リハビリ

101人

補助器具の提供

426人

医療スタッフ研修

30人

身体障がい者の職業訓練

60人

栄養支援の保護者ミーティングには父親も熱心に参加

施設のバリアフリーにむけて、利用者と家族のミーティング

理学療法士への研修

障がいのある人たちの職業訓練

乳がん啓発イベントに参加した患者たち

保健医療支援

身体障がい者への訪問診療、リハビリ支援、心理社会的サポート、福祉器具の提供、リハビリ施設の開設と拡充、家族支援、理学療法士等の研修

身体障がい者の職業訓練

重度の栄養障がいをもつ乳幼児への診療と栄養支援、家族支援

乳がん検診支援

身体障がい者への訪問診療、リハビリ支援、心理社会的サポート、福祉器具の提供、リハビリ施設の開設と拡充、家族支援、理学療法士等の研修

栄養改善支援
（検診・薬剤提供）

幼児 **511人**
保護者 **143人**

乳がんの早期発見、患者と家族の支援　男女 **20,511人**
（患者・家族を含む）

- 啓発活動　16,500人
- 検査補助　2,741人
- 医療費補助（乳がん患者）　766人
- 心理サポート（乳がん患者）　813人
- 医薬品、サプリメント等の提供（乳がん患者）　1,524人
- サポートイベント開催（3回／乳がん患者とその家族）　628人

パレスチナでの教育支援

人口の過半数が15歳以下のパレスチナの未来は、教育にかかっているといっても過言ではありません。2015年以来ガザでの教育支援を続けてきましたが、18年には、ガザに加えてヨルダン川西岸のベツレヘムでも教育支援を開始しました。長期的には教育の質的向上、学力の向上を目指しています。

パレスチナ自治政府の財政難で、学校予算はどんどん削減され、備品を買うこともままなりません。また教員給与も減額されたり、遅配が続くため教員のモチベーションも下がっています。改定されたカリキュラムで実験が重視されているにもかかわらず、教育現場で実施できずにいることから、特に小学校の理科に焦点を当てています。

ヨルダン川西岸の農村部では、ユダヤ人入植地が学校に迫り、校門の前に兵士がいて通学中の生徒が脅かされることも多々あります。子どもたちが学習意欲や関心を失わないよう、保護者やコミュニティが学校に関心を持つことも目指しています。

教員向けの研修

教育支援

小学校の理科室修繕、実験備品などの提供、理科教員の研修、校長の研修、児童中心型教育の実施、遠足などの実施

パレスチナ❷ 教育支援

小学校教育の質的向上

公立小学校 **8校＋16校**

補習授業

学校児童	**480人**
2児童館児童	**107人**
児童中心型授業	**2,394人**

学校設備支援

8校＋16校

理科室、図書室、教室など

教員研修

教員 **48人＋32人**

校長 **8人＋16人**

アトファルナろう学校

1992年に地元のNGOと一緒に開校したアトファルナろう学校は26年を迎え、本格的なろう学校として、また聴覚障がい専門機関として、地元の厚い信頼に応えています。17年から継続支援した小学校1年生クラスは2年生クラスになり、5年生クラスは6年生になりました。障がいがあってもそれを感じさせないほど子どもたちはすくすくと成長しています。給食も提供しています。

アトファルナの
6年生

児童館の
子ども自治会選挙

子ども
カメラマン

ナワール児童館

2006年に地元のNGOと開設した児童館には、毎日たくさんの子どもたちが通っています。安全な遊び場として、またアート、音楽、ダンス、演劇、パソコンなどを学ぶ場としてあるだけでなく、小学生が人権や平等、リーダーシップや民主主義を学ぶ場になっているのです。元気な子どもたちから将来のガザを背負う市民がたくさん生まれることでしょう。地域の母親たちに交流や学習の機会も提供しています。

ネゲブ共存事業

イスラエル南部のネゲブ砂漠には、ベドウィンと呼ばれる遊牧民の人たちが、イスラエル市民でありながら十分な権利を保障されずに生活しています。その人権を守り、共存を目指すイスラエルのNGOの活動に協力し、公的に認められずいつ追放されるかもしれない村で、小学生が自己表現を学ぶ活動を支援しています。この報告書の表紙・裏表紙の写真は子どもたちの撮影したものです。

アトファルナろう学校の運営支援

クラススポンサーシップ

小学2年生 **8人**

小学6年生 **10人**

ナワール児童館運営支援

児童館運営、レクリエーション、補習授業、ワークショップや講演会の実施

小学生 **650人**

母親 **482人**

ネゲブ共存支援

写真のワークショップ、遠足、写真展示会など

遊牧民の小学生と女性

40人

タトリーズ & 国内事業

2018年も様々な活動を通して、パレスチナやシリアの子どもたち、状況、そして当会の活動を紹介してきました。

5月には「パレスチナフェスタ」を開催し、難民となって70年を経過したいまも厳しい生活を送るパレスチナ人、それでも家族や生活、文化を大切にしているサバイバーとしてのポジティブな姿を広く知ってもらうことを目指しました。その他、講演会・映画会・報告会等の開催、学校や生協などでのお話、グローバルフェスタなどの国際協力イベントにも参加しました。

また、パレスチナ刺繍を通して、パレスチナと文化を知ってもらうだけでなく、その製品を広く日本で普及するために、「タトリーズ パレスチナ刺繍」というブランドを立ち上げてギフトショーにも出展し、一般の市場開拓を進めています。

ご協力いただいた多くの会員の皆様、支援者の方々、ボランティアの皆様に改めて感謝を申し上げます。

会報誌「サラーム」

会報誌『サラーム』発行

会員・支援者 **4,000人～**

ボランティア **60人**

パレスチナフェスタ2018

来場者数 **800人**

ボランティア **50人**

交流イベント

国際協力・交流系イベントへの出展

ボランティア **70人**

一般・学生 **数千人**

講師派遣、出前授業

講師派遣、出前授業 **12回**

参加者 **数千人**

タトリーズ

情報提供・開発教育

インターネット広報

68,735人～

団体・学生受入

4校50人以上

活動報告会

4回150人以上

講演会・主催イベント

4回200人以上

カフェ・サラーム

2回15人

ご支援・ご協力いただいた団体（順不同、個人の方は省略させていただきました）

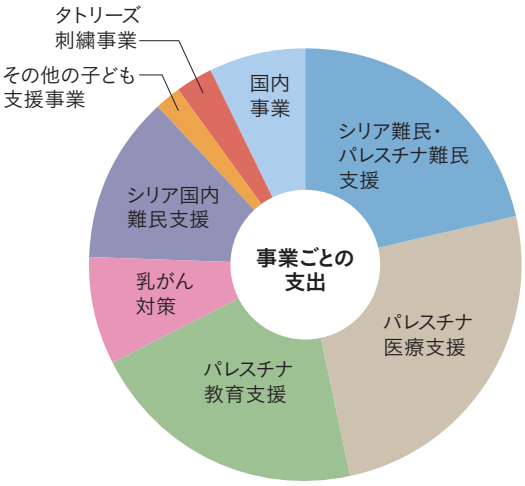
特定非営利活動法人ジャパンプラットフォーム、外務省、国連開発計画、国連人口基金、生活協同組合パルシステム東京、株式会社フェリシモ基金事務局、特定非営利活動法人アーユス仏教国際協力ネットワーク、浄土宗平和協会、株式会社テーブルクロス、JAMMIN合同会社、合同会社渡邉コーポレーション、（有）センインターナショナル、聖アンデレ教会、公益財団法人パブリックリソース財団、ソフトバンクモバイル、生活協同組合パルシステム埼玉、木村小児科、日本中近東アフリカ婦人会、瑞応寺、日本キリスト教協議会、檀上診療所、あらた法律事務所、学校法人香蘭女学校、日本聖公会大阪教区川口基督教会、特定非営利活動法人パレスチナの子どもの里親運動、有限会社ふじもと薬品、日本キリスト教団上大岡教会、大阪友の会、株式会社ひこばえ、ピースケ・プロジェクト、西宮公同教会、gooddo株式会社、合同会社パレスチナ・オリーブ、すぺーすはちのこ、日本聖公会東豊中聖ミカエル教会、「GAZAに平和を！ 火曜定例会」、日本基督教団中目黒教会、株式会社カヤック、姫路野里キリスト教会、有限会社鈴木屋、日本基督教団紫野教会、もりいさむ音楽事務所、株式会社ろばや、由木キリスト教会、聖ドミニコ女子修道会中島丁修道院、有限会社クロスロードトレーディング、岐阜県美術館、西宮聖ペテロ教会、日本基督教団鶴川北教会、日本基督教団むさし小山教会、的場幼稚園、日本聖公会東京教区聖パウロ教会、日本キリスト教団鳳教会、（公財）大阪YWCA、（公財）名古屋YWCA、日本基督教団 埼玉新生教会、市川聖マリヤ教会、実教出版労働組合NNJ、いくの生活ともの会、石川行政書士事務所、フェリス女学院大学ボランティアセンター、市川三本松教会、兵庫教会もみの会、レデンプトリスチン修道院、日本聖公会横浜教区横浜聖クリストファー教会、東京一般労働組合東京音楽大学分会

決算報告 *当会では、矢崎公認会計士事務所の会計監査を受けています。

2018年度 貸借対照表 2019年3月31日現在

（単位：円）

資産の部		
流動資産		
現金	183,092	
普通預金	247,806,403	
現地現金	991,975	
現地預金	8,517,602	
外貨普通預金	1,470,174	
定期預金	3,027,547	
売掛金	27,864	
輸入棚卸資産	2,798,320	
国内棚卸資産	329,387	
前渡金	22,276,156	
前払費用	411,956	
流動資産 合計		287,840,476
固定資産		
保証金	954,158	
固定資産合計		954,158
資産の部 合計		288,794,634
負債の部		
流動資産		
未払金	5,202,528	
未払費用	584,568	
事業費前受け金	222,487,184	
預り金	367,883	
未払法人税等	70,000	
流動負債 合計		228,712,163
負債の部 合計		228,712,163
正味財産の部		
正味財産		
前期繰越正味財産額	64,215,211	
当期正味財産増減額	△4,132,740	
正味財産 合計		60,082,471
正味財産の部 合計		60,082,471
負債・正味財産 合計		288,794,634



2018年度 活動計算書 自2018年4月1日 至2019年3月31日

（単位：円）

経営収益			
受取会費		3,876,000	
受取寄付金			
一般寄付		22,089,536	
指定寄付		15,268,917	
受取助成金等			
ジャパンプラットフォーム助成金		116,313,523	
外務省補助金		45,523,952	
国連等の助成金		23,415,714	
事業収益		6,693,702	
その他収益		351,664	
経常収益 計			233,533,008
経常費用			
事業費			
（人件費）	給料手当	42,084,273	
	法定福利費ほか	6,979,262	
（その他経費）	現地事業費	144,939,153	
	業務委託費	7,991,407	
	印刷製本費	1,363,260	
	旅費交通費	6,640,935	
	通信運搬費	2,219,924	
	保険料	3,033,670	
	事務用品消耗品費	1,497,570	
	売上原価	4,376,398	
	イベント経費	1,046,732	
	その他諸経費	2,206,746	
事業費 計			224,379,330
管理費			
（人件費）	給料手当	3,751,500	
	法定福利費ほか	1,458,152	
（その他経費）	業務委託料	2,307,208	
	地代家賃	3,422,872	
	水道光熱費	361,424	
	通信運搬費・旅費交通費	971,489	
	事務用品・その他経費	943,773	
管理費 計			13,216,418
経常費用 計			237,595,748
当期経常増減額			△4,062,740
経常外収益			
経常外収益 計			0
経常外費用			
経常外費用 計			0
税引前当期正味財産増減額			△4,062,740
法人税、住民税及び事業税			70,000
経理区分振替額			0
当期正味財産増減額			△4,132,740
前期繰越正味財産額			64,215,211
次期繰越正味財産額			60,082,471

特定非営利活動法人（認定NPO法人）

パレスチナ子どものキャンペーン CCP Japan

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-12-23 豊ビル4階
TEL 03-3953-1393　FAX 03-3953-1394　Eメール info@ccp-ngo.jp
ホームページ https://ccp-ngo.jp/　Facebook パレスチナ子どものキャンペーンnew

※当会は認定NPO法人です。当会へのご寄付は税金の控除が受けられます。

郵便振替口座 00160-7-177367　**みずほ銀行 高田馬場支店 普通 8030448**
三井住友銀行 目白支店 普通 6852351　**三菱UFJ銀行 目白支店 普通 0152056**

表紙・裏表紙：ネゲブのベドウィンの子どもたちが撮影した日常生活